

# うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第 23 号

2018 年 12 月 1 日発行

会長 山路 安清

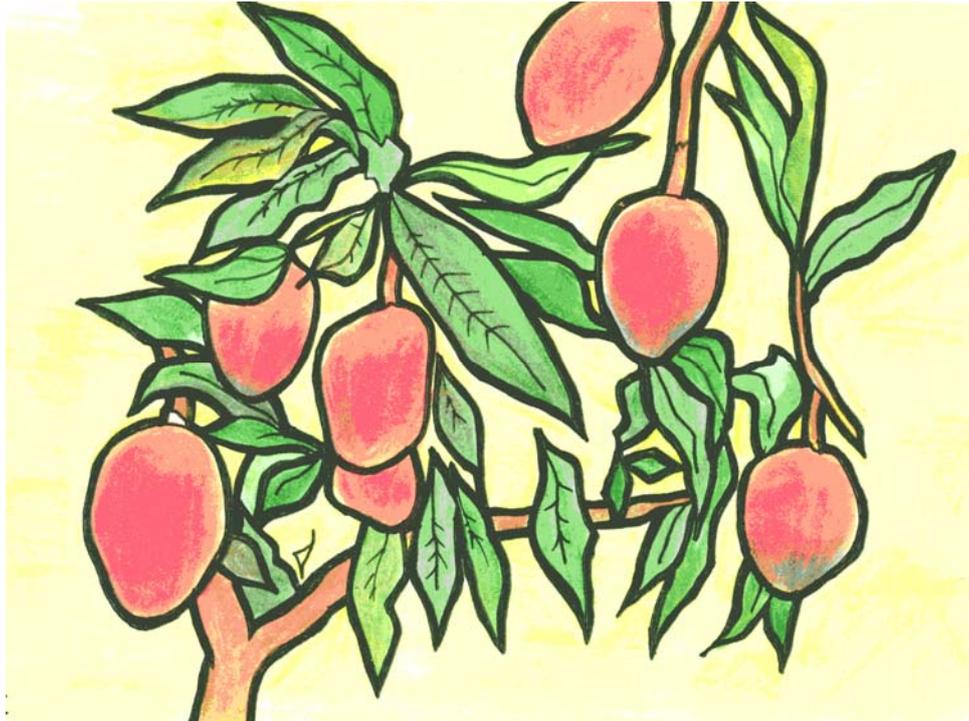
事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川 5-26-10-101

伊藤須美子

電話 090-9834-7808



沖縄のマンゴー

沖縄語を話す会は、沖縄本島の伝統的な言葉を知るための勉強会です。沖縄語の歌の理解にも役立ちます。月に 2 回、東京品川の大崎で行います。入会はいつでもできます。照会は上記の事務局へ。

- わらび じぶん ぬ時分 ----- 山路安清 2 頁
- わらび くる うむくと さん やたる頃ぬ思事 ( 3 ) ----- 保坂和子 3 頁
- うちなーぐち 沖縄口とぬ係わい ----- 宮崎文隆 4 頁
- 記事別の語句の説明 ----- 5 頁
- イラスト ----- 小林雅代 (表紙、2、3 頁)

ホームページ  
沖縄語教育支援文庫

<http://www.wwq.jp/p/>  
<http://www.wwq.jp/q/>

山路安清（東京都品川区、那覇出身）

我んねー那覇んじ生まりて、戦世まで居たん。うぬ時分ーやぐやぐどっし学校から帰て来やーに、カバンちゃん投げ遊びーが行ちゆたん。今とー違て同士おーぬ集まで、胸考ーっし相撲取たい、かちみそーれーさい、

まるたま、ぱっちーえー、をーじおーらせー、ぎーたーんでーっし遊どーたん。

昭和10年頃ー、色んな物売やーが居たん。「桃買みそーれー」、ぶたむち売やーぬ「ぶたーむーち」、魚売やーぬ「グルクン買んちよーらにー」、玄米売やーぬ「げんまい、げんまい」んて言る声ぬ面白さたん。

学校んじえー書ち方、算術、綴り方ぬ点数や、誰ん話ーさんたん。生徒ぬ達やおーて、1番、おーて、2番て言ち、ちゃーおーえーぬ事考ーて、家んじえー空手ぬ巻ち藁突ちやい、力石持っちやいそーたん。我ーが病っし学校かい行かん場所ねー、ホットし喜どーたるっ人ん居たんて。

学校ぬ先生前んじえー大和口使て、同士とーむる沖縄口っし話そーたん。朝礼ぬ時先生が、我ん見ちよーみしえーねー、ぶちくん成とーる風なーすたん。先生や慌てて我ん抱ち、衛生室かい添ーて行じ、ブドウ酒飲ますぐと、時々飲みーが行ちゆたん。

我ん親ー主や警察署長、あんまーや女学校ぬ先生そーたぐと、我んねーカギツ子やたん。昼間ーじよーひちゃーが家ぬ番そーたぐと、我っ達家やちけー隣ぬ童ん達ぬ集まい所やたん。蓄音器・空気銃・絹

張り模型飛行機・行軍将棋・碁盤・映写機・スケート・グウムカン（ぱちんこ）・サーベル（指揮刀）ぬあたぐと、皆物珍さっし遊どーたん。

「買い食いやしえー成らん」て先生から言らっつとーたしが、アイスキャンデー・黒飴・芋菓子なんどんでー、ばーくる買て食どーたん。

我っ達屋敷ぬ屋門から玄関までぬ間んかい、黒木、竜眼、桑木、蒲葵ぬあたし



が、蒲葵ぬ木や天から神ぬ降りて来ゆーる御願所んて言らっつとーたん。蒲葵ぬ木ぬ前んかい、かぬあたしが、うりんしじ高さる所やたん。黒木

ぬ実、桑木ぬ実や木ぬ上んじ食どーたん。4年生ぬ時うぬ蒲葵ぬ木んかい3寸釘う打っちやぐと夜体ぬむるひらくだん。

まったくーや胸くる作て、みーばーかーんじ揚ぎーたん。街廻いや西武門・県庁おーどーかたばるうるくひこーじよーどんどーはとば大通り・潟原・小禄飛行場・通堂波止場・なんみー海水浴場・軽便鉄道ぬ安里駅・首里・与那原辺いんかい行ちゆたん。

県庁大通りやがじまる樹ぬトンネルやたん。同士どまじゆん黒糸っし五銭目括ち、木ぬ上から垂らち、車夫ぬうり取らんちしーねー、引ち上ぎーたん。車夫やくさみちよーたん。

戦世成て疎開さしが、旅っし大和かい行

かりーんち 喜どーたん。九州んかいっ来、  
うどる 驚 ちゃせー 皆 方言使て、我っ達が標  
じゅんごちか みじら 準 語使いし 珍さそーたん。今東京んじ  
うちなーぐちびんちよー 沖繩口勉強そーしが、大和人ぬ多させ  
てーじ ー大事ないー事んぢ思やびーさ。

わらび くる うむくど さん  
童やたる頃ぬ思事 (3)

保坂和子 (東京都世田谷区、那覇出身)

じゅー じゅーくーしゅー やー や  
十・十空襲っし、家んむる焼かつたる  
あと 後ー、あま走いくま走いっし、ひんぎて、や  
にしあーばる くみし がて西上原ぬ米須さぬんかい厄介掛きて、  
いっぺー 一杯らーっ子やいびーたん。んまから那覇ん  
かい 行ちーねー、荷馬車ぬ主んかい御願ー  
ぬ し乗たい、また、軍ぬトラックんかい手上げ  
て御願ーし乗たい、をーじさーにぐーさんし、  
みち なが 道や長さいびーたん。やっどかつと着ちやる  
わ たーやー 我っ達家、んまりかーやむる焼きて何ん分か  
らん成とーいびーたん。我っ達家や五右衛門  
ゆーふる 湯風呂やたぐと、うりが残とーとど、胴ぬ家  
ぬ あたる 所ぬ分かいびーたる。一杯大事成  
とーいびーたん。カンタク小路と安里小路ぬ  
あーだ や 間ー焼きらん所んあいびーたん。山口ん  
や 焼きらん如残やびたん。松山国民学校ぬ  
うら じょー どん 裏ぬ門ぬ所ぬ道んかい、道一杯ぬまぎさ  
ばくだん う 爆弾ぬ落とさったる穴ぬあて、んまぬっ  
ちゅ ちゃー 人ぬ達 がまーさんぢ言ち、爆風さーに崩り  
やしち たる屋敷ぬまぎ木んかい人間ぬししぬ下が  
まつやまこくみんがっこー にこーじょ 多ーだ  
とーたんで。松山国民学校と二高女ぬ間  
ぬ道からー、家ぬむる焼きて無ーん成とーぐ  
ど、波上ぬ鳥居ぬ近さんねーさびたん。白さ  
る道ぬ一ち、真とーば 左んかい伸ばさ  
みち ちー って見ーて、鳥居までー一杯近さてーさやー

うむ なーぶ まち がっこー わ たー  
んぢ思やびたん。那覇ぬ町ん学校ん我っ達  
やー 家んむる焼かつて、十・十空襲ぬ後ー三  
にんしー びんちよー ね 年生ぬ勉強や無ーやびらんたん。昭和  
にじゅーにん 20年(1945)3月ぬ、一番後成たる疎開  
せん 船さーに鹿児島んかい行じ(4、5、6年生  
ちゅーいち いちがつき ど中ーぬ1学期まで)、あんしから東京  
をて暮らち、なー7 2年経っちょーいび  
ーん。あぬ、あながちさる那覇ぬ町歩ちみそ  
ー ちやる御万人ん、なー、いきらく成とーん  
ぢ 思やびーん。あぬ時分ぬ事ー、覚とーる  
うちにかかんねー成らんで思やびたん。あん  
うちなーぐちわし し沖繩口忘ーねー生まれ島忘ーんぢ思て、  
ぬい かゆ くぬ会んかい通とーいびーん。童ぬ頃話ち  
よー たる言葉、うりからんめー、女ぬ親、  
ぬなく うや 女ぬ親ぬ同士ぬ方々ぬ話しみしえーる言  
ばうびん 葉思出じゃさがちーなー、くり書ちょーいび  
ーん。

いくさ い くにやぶ さんがあ  
戦んぢ言しえー、「国敗れて山河有り」  
んぢ言る言葉ぬあいびーしが、沖繩をてー  
さんが 山河んさつて無ーやびらん。多くぬっ  
ちゅ ちゃー くる 人ぬ達が殺さったい、怪我さい、多くぬ  
むぬ ねーん 物ん無ーん成いびたん。我っ達たーりー(全  
そく) や戦後やがて石川をて病さーにま  
ーしみそーち、大やっちー(国雄)や広島を  
ひ 被ばく、やっちー小(健次郎・17)や沖繩  
ちゅ いくさ 戦さーにまーさびたん。女ぬ親ぬ嘆



しがたなま  
さしみしえーる姿今  
うびん  
ん思出じゃさびーん。  
うちなー  
なー、くりからー沖繩  
ちゅ しま うみ  
ぬ清らさる島ん海ん、  
ゆぐ な うむ  
汚ちえー成らんで思や  
びーん。  
わらび くる あし  
童ぬ頃ぬ遊べー、

イシナーゲー、ケンケン、オハジキ、オテダ  
マ、人形遊んで。男ぬ童ん達や  
如何ぬ様な遊びそーいびーたが。学校から  
帰いに、いぬ歳ぬ男ぬ童ん達が4・5人、  
我ッ達家ぬ門ぬ前んかい揃ていやーに、我  
んね一家んかい入るくどぬ成らん日ぬい  
くるあいびーたん。うぬかーじ裏ぬ家ぬ囲い  
越て、胴ぬ家んかい帰たるむんやいびーん。  
食たる菓子「ハチャグミ」、「タンナファ  
クルー」(くれーあんちょー臭さぬ、好ちゃ  
びらんたん)。  
「てんぴぬめー饅頭」(ゆうぬくぬかじゃさ  
ーに香ばさいびーん)。  
「なんどー」(くれー一杯旨さいびーたん。  
サンニンぬ葉ぬ匂、ひふぬちぬかじゃ、地  
豆ぬデザインぬあて忘らん、やいびーし  
が今餅ぬ味ぬ変わて、旨こー無ーん成と  
ーいびーん。)  
「ムムぶーし」(くれーう胡麻ぬ多く、く  
がぬ味ぬ皮や旨さむん)。  
「チップンとシブイぬ砂糖漬き」(童そ  
いねー好ちゃびらんたん)。  
「コーぶーし」(仏壇んかいさぎーる物  
あらん如、白さるコーぶーしんかい梅ぬジャ  
ムぬ挟まとーる、手ぬ平あたいぬまぎさる  
菓子、何んでん言らんあたい旨さいびーた  
ん。)今ん作らっとーいびーがやー。  
「クンピン」(皮ぬ焼ち按配とくーがぬ多  
く入っちょーるう胡麻味、好ちやいびーた  
ん)。  
女ぬ親ぬ作いる「クジムチ」と「三月  
菓子小」(地豆とくーが、砂糖ぬ入っちょ  
ーる油っし揚ぎてーる菓子、旨さたっさ

ー)。  
菓子ーあらんしが、女ぬ親ぬ作てーる  
「地豆豆腐」や変わていー味やいびーん。我  
ッ達や生姜と醤油さーに食まびたん。今ぬ  
甘ダレや旨こー無ーやびらん。  
「ゲンマイユー」(生姜ぬかじゃっし、くり  
んまた変わてあながちさいびーん。  
「甘菓子」(菖蒲ぬ葉さーに豆揃て食まび  
たん。うぬ葉ぬ匂ぬあながちさいびーん)今  
年甘菓子得たくと、童ぬ日に湯風呂んか  
い入りーる菖蒲さーに、食て見じゃびたん。  
一杯あながちさいびーたん。(終わい)

うちなーくち かか  
沖縄口どぬ係わい

宮崎文隆 (東京都東村山市)

幾年前がやたら、石垣んかい行ちゃびた  
ん。んまぬ昔ぬままぬ山見じ欲さんで思て、  
レンタカーさーに山ぬ近さる所まで行じ、  
山ぬ中膝さーに歩ちやがなー見ちやる後、  
車んかい戻て来やーびたくと、んまんかい  
タクシーぬ来やーびたん。山見じーが来やる  
う客降るち、運転手やたばく吹ちやがな、  
傍ぬ町屋ぬ女とゆんたく始みやびたん。う  
ぬ後運転手や車ぬ中から三線出じゃち、  
傍ぬ欄干んかい  
いち、弾ち始みや  
びたん。我ーが話  
し掛きーねー、歌  
ー胴さーに作



たん、三線ん胴さーに作たんで言ちよーい  
びーたん。  
夕さんでぬくぬ行会ーや、我んにんかえー

したたか忘らんあた、肝に染みやびたん。  
 うぬ時から我んにん三線弾きわどやるんで、  
 ちゃー思とーいびーたん。  
 去年ぬ8月、我ーが暮らちょーる島ぬ  
 公民館をて、体頑丈なする為なかい、  
 体動かする稽古そーいびーたくど、別ぬ  
 近さる所から三線ぬ音ぬ聞かりやびたん。  
 我んねーふるまさっし、相中どまじゅんぬ  
 ばがやびたくど、男ぬ三線弾ち、女ぬ太  
 鼓打っちょーいびーたん。我んねーいちゅた  
 うり聴ちやる後、うぬ男ぬ方ど話さくと、  
 9月からうぬ公民館をて三線習ーする集  
 まい始みゆんで言ちょーみしえーびーたく  
 ど、我んねー直ぐ生徒成い欲さんでうんぬき  
 やびたん。一月2回、一回2時間成とー  
 いびーん。  
 三線弾ち始みて、2月位経っち、歌ぬ中  
 ぬ沖繩口ぬ肝合ぬ解らん成て、歌ー余所国  
 ぬ歌ぬ如どあいびーたる。かんしえー成らん  
 で思やがな、インターネットさーに沖繩  
 口習ーする所ー無ーんがやーんで、2、3  
 日ぬ間かめとーいびーたくど、やっどか  
 っとうぬ集まいぬあしが分かて、直ぐ電話っ  
 し、先じえー見じーが来やーびたん。  
 今年ぬ正月からうぬ集まい(沖繩語を話  
 す会)んかい入っち、今まで思はまで習と  
 ーいびーしが、くぬ会とー別に、昔ぬ沖繩  
 ぬ映画見ちやい、沖繩んかい係わいぬある  
 催しんかい出じたい、また多くぬ方々ど  
 話さいっし、色々な立場から沖繩ぬ昔か  
 らぬ姿ぬ解て来んねーさびーん。我んね  
 ー東京をて暮らちょーいびーしが沖繩ん  
 かい居んねーさびーん。

## 記事別の語句の説明

### 童ぬ時分

行ちゅたん = 行った。「んじゃん」に同じ。  
 すたん = した。「さん」に同じ。  
 みーばーかー = 今の松尾辺り。  
 なんみー = 波の上(地名)。  
 軽便鉄道 = 沖縄県営鉄道。営業は1914年(大正3)  
 ~1945年(昭和20)の約30年間。  
 五銭目 = 穴のあいた5銭の硬貨。「目」は穴。

### 童やたる頃ぬ思事(3)

十・十空襲 = 昭和19(1944)年10月10日に  
 あった米軍による沖縄大空襲のこと。  
 西上原 = 北上原(地名)のこと。沖縄語の「西(にし)」  
 は共通語の北(North)を意味する。「にし」  
 に「北」の字を当てるのは、翻訳当て字。  
 良ーっ子 = 良い子。(良くしてもらった。)  
 五右衛門湯風呂 = 五右衛門風呂。鉄製で椀型。かま  
 どの上に据えて下から火を焚く。  
 童ぬ日 = 子供の日。5月5日。

### 沖繩口どぬ係わい

山 = 木や草の茂ったところ。森林。地形とは関係な  
 い。  
 膝 = 足。脚全体。  
 島 = 生活地域。

## 編集方針

- ・執筆者が沖縄で暮らした地域によって、同じ意味  
 合いでも言葉や発音が異なることがあるが、執筆者  
 の表現を尊重した。
- ・漢字には全て振り仮名を振った。沖縄語の中の共  
 通語の漢字は、外来語として振り仮名を振り、読み  
 方の参考にした。
- ・原稿の中の共通語はなるべく沖縄語に直した。

沖縄文字一覧と用例

と[tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と[?hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?jal]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど[do]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や[?jal]	やー(家) やん(である)
と[ti]	とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)	ゆ[?jul]*	ゆん(言う)
て[te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ[?jul]	ゆんたく(おしゃべり)
と[di]	ふと(筆) むとー(喉) ときやー(秀才)	よ[?jol]*	よーいー(おさな子)
で[de]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ[?jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ[kwa]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ[?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か[ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ[?wa]	わーむん(私のもの)
ふ[gwa]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ[?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み[?wi]	みきが(男) みなぐ(女)
く[kwi]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系[?we]*	系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き[ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系[?we]	うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
ぐ[gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん[?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi]	かーぎ(容ぼう)	ん[?N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く[kwe]	くー(鍬) からじくー(髪きり虫)	い[?i]*	いん(縁) いだ(枝)
け[ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ[gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を[?u]*	をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ[ge]	げー(害) にげー(願い)	う[?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ[hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え[?e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwi]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お[?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を[?o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[ ]内は沖縄語辞典による読み方 [ ? ]は声門破裂音のあること、[ ' ]は声門破裂音のないことを示します。

\* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) xとーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)